

# 訪問看護



No.22

訪問看護ステーション  
☎32 - 2416

# ステーション便り

訪問看護は高齢者向けのサービスというイメージをお持ちではありませんか。実は、訪問看護の対象者は0歳から高齢の方まで、全年齢の方が対象です。今回は0歳児への訪問看護の様子をご紹介します。

## 「Iちゃんの、動作一つ一つ、すべてが心配..」 byお母さん

生後20日ほどで呼吸の異常に気づいて受診をし、心室中隔欠損症と診断されました。治療方針は『体力がつくのを待って手術』ということで2週間で退院となりました。Iちゃんは、おっぱいを飲む力が弱いため栄養が十分に取れません。また、頑張っても呼吸が苦しくなってしまいます。そのため、鼻から胃へチューブを入れて栄養補給することが必要です。お母さんは、入院中、鼻のチューブを入れる練習をしました。

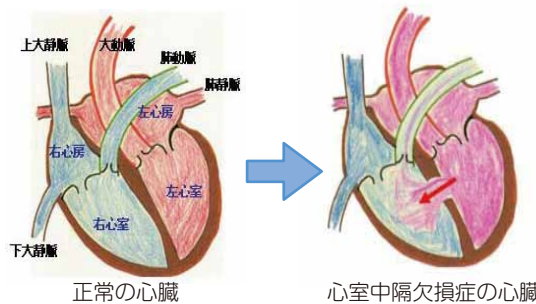
Iちゃんの病気や鼻のチューブの管理などに不安があったお母さんは、病院の看護師に訪問看護を勧められ、退院日から開始となりました。

Iちゃん：生後1カ月  
心室中隔欠損症  
祖父母、パパ・ママ、お姉ちゃん  
の6人家族



## 【心室中隔欠損症とは】

心室中隔欠損症は、1000人に3人の割合で起こる先天性の心臓の病気です。子どもの心臓関連の病気の中でも一番多いと言われています。心臓の左右の心室を仕切る壁に穴が開いてしまっており、圧の高い左心室から右心室へ血液が流れることで肺の血流量（肺への負担）が増え、呼吸困難や心不全を引き起こします。



## 体調管理

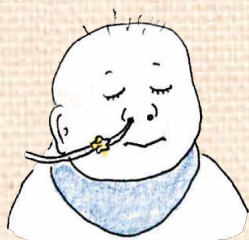
週に2回訪問して、栄養が取れて順調に体重が増えているか、呼吸状態、機嫌、便や尿の様子などを伺い、対応しました。



※小児用の体重計と、酸素飽和濃度測定器を助産所から借りました。

## 鼻のチューブ交換

週1回、お母さんの「鼻のチューブ交換」を見守り、必要時にはお手伝いをしました。また、胃にきちんと入っているか、一緒に確認しました。



## 相談

1日8回の授乳は、乳首を吸い、搾乳した母乳を哺乳瓶で飲み、不足分を鼻のチューブから入れました。1回に90分かかるため、すぐ次の授乳になり休む時間がありませんでした。病院に相談し、①口から飲む時間を20分と決めること、②夜は口から飲むのは中止し、ご家族に鼻から入れてもらうことで、母子の睡眠時間を確保することができました。



病院が遠いので、発熱や風邪症状などの時は、かかりつけ医に診てもらおうようにしました。

## お母さんの感想

病院が遠かったので、日々のちょっとした変化を訪問看護師に随時相談でき、対応してもらえてよかったです。病気のことだけでなく、生活の中での心配ごとを、いつでも相談することができたので安心でした。

また、鼻のチューブ交換がとても心配でしたが、そばで見守ってくれて確認まで一緒にできて心強かったです。

冬だったので、病院に行くとは別の病気をもらってしまうのが心配でしたが、自宅に来てくれたので安心でした。

Iちゃんは、手術を受けて無事に退院し、訪問看護を再開しました。おっぱいも力強く飲むことができるようになり、順調に体重が増えました。傷の経過もよく、訪問看護の回数も週2回から2週間に1回となり、開始から5カ月後には終了となりました。